

平成19年11月7日

J A R I P 会員各位

日本保険・年金リスク学会
研究会担当理事
栗山晃・福田敬・臼杵政治

J A R I P 平成19年度第2回研究会のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、日本保険・年金リスク学会（J A R I P）では会員の研鑽のため、重要なテーマについてより深く研究討議を行う研究会を実施しております。平成19年度第2回研究会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。

今回は、武蔵大学の神楽岡 優昌教授から、日本の実際のデータを用いた「**保険解約行動の実証研究**」についてのご報告をいただきます。

解約率については、負債評価やストレステストなどの実務でも重要な計算基礎の一つであるものの、日本においては、そのモデル開発や実証結果の評価など必ずしも十分に研究されているとはいえない状況にあると思われま。

特に実務に携わっている会員にも有益で関心のあるテーマであると思います。

ご報告の後の質疑応答や意見交換を通じてさらに理解を深めていきたいと考えております。会員各位の積極的なご参加をお願い申し上げます。

敬具

記

1. 第2回研究会

日時：平成19年（2007年）12月7日（金曜日）の2時から5時

場所：朝日生命大手町オフィス1階会議室

（地下鉄大手町駅またはJR東京駅下車、徒歩5分）

（別紙 周辺地図をご参照下さい）

講師：神楽岡 優昌教授（武蔵大学）

（講師略歴をご参照ください）

講演題目：「保険解約行動の日本の実際のデータを用いた実証研究」

要旨：本研究では保険契約者の属性別にグループ分けした保険契約プールを対象に解約のモデル化をおこなう。最初に計数回帰モデルの中から理論的整合性とパラメータ推定の実行可能性からモデルの選択基準を検討する。その結果、分布の再生性と overdispersion がモデルの選択基準であり、負の2項モデルの中でも NB1 とよばれるタイプ（分散が期待値の線形関数となる）が選択されることが明らかにされる。本モデルの説明変数には保険

プールの属性だけではなく観測時点の共変量を取り込むことが可能であり、契約後の経過時間、季節性、失業率などのマクロ経済変数を取り込むことができる。本モデルの有効性を調べるために、パネルデータ分析により実証分析をおこなった。分析結果は、契約後の経過時間や季節性、とりわけ失業率変化が解約数に影響をあたえることを示した。

2. 参加申込

参加希望者のお名前・所属組織名・E - メールアドレス・電話番号に加え、「12月7日研究会申込」と明記の上、E - メールにて

To : office@jarip.org (日本保険・年金リスク学会事務局 担当：中村)

cc : kuriyama_akira@mail.asahi-life.co.jp (同研究会担当：栗山晃)

迄お申込ください。参加申込は11月30日(火)迄とさせていただきます。

(注)この時期、JARIPでは研究会と研修会の開催があります。混乱を避けるため、参加申込みのメールの件名表示を「12月7日研究会申込」と記載願います。

3. 参加費

研究会の参加費は無料ですが、資料代などの実費をカバーするため、会場にて1,000円程度のカンパをお願いしております。趣旨ご高配の上、ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。またカンパの趣旨から領収書の発行は行っておりません、ご了承くださいたくお願い申し上げます。

以上

講師の略歴：神楽岡 優昌教授(武蔵大学)

武蔵大学経済学部金融学科教授(大阪市立大学理学博士)。神戸大学理学部卒，神戸大学大学院理学研究科修士課程修了，大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程単位取得退学。日興証券投資工学研究所、MTB インベストメントテクノロジー研究所を経て2000年4月より武蔵大学経済学部金融学科助教授，2006年4月より現職。専門は、ファイナンス理論、金融工学、デリバティブや証券化商品の評価。